コマンドライン・パイプライン連携ガイド

TD・システム担当の方向け

Shield3D v2.7
2026年11月

1. コマンドの場所
2. コマンド一覧
3. scan のオプション
4. 終了コードと受け入れ処理への組み込み
5. 結果フォルダの中身
6. 設定ファイル

1. コマンドの場所

環境	コマンド
Windows	`"C:\Users\<ユーザー>\AppData\Local\Programs\Shield3D\shield3d-cli.exe"`（インストール先を変えた場合はそのフォルダの `shield3d-cli.exe`）
Mac	`/Applications/Shield3D.app/Contents/MacOS/Shield3D`

以下の例では、上のコマンドを `shield3d` と書きます。すべてのコマンドに `--lang ja` / `--lang en` を付けて表示言語を指定できます。

2. コマンド一覧

コマンド	内容
`scan <パス…> [オプション]`	ファイル・フォルダ・zip を検査
`pc [--fix] [--fix-danger]`	このPCのMaya環境を検査（`--fix` で既知ウイルスを駆除、`--fix-danger` で「危険」判定も削除）
`report <結果フォルダ> [--client 会社名]`	過去の検査結果から検査報告書を作る
`update`	ウイルス定義（Shield3D・ClamAV）を更新
`license status | activate <キー> | import <認証ファイル> | refresh | upgrade | deactivate | request`	ライセンスの確認・認証・解除
`engines`	使える検査エンジンを表示
`gui`	画面を開く

3. scan のオプション

オプション	内容
`--clean`	駆除版を作る（元のファイルは変更しません）
`--strict`	「要確認」の標準外スクリプトノード（自動実行するもの）も駆除対象にする
`--full-copy`	問題のないファイルも駆除版フォルダにコピーし、納品一式として使えるようにする
`--engines yara,clamav,defender`	使うエンジン（既定はこの3つ。Shield3D独自の解析は常に使用）
`--vt`	VirusTotal のハッシュ照合も行う（APIキーが必要）
`--zip-password PW`	パスワード付き zip のパスワード
`--mb-mode remove`	.mb の不正ノードをグループごと削除（実験的。既定は無害化）
`--mayapy [パス]`	mayapy で .mb を開き直して不正ノードを完全削除（パス省略で自動検出）
`--client-report` / `--client 会社名`	検査報告書PDFを作る／その宛先
`--out <フォルダ>`	結果の出力先
`--no-open`	終了後にレポートを開かない（自動処理向け）

4. 終了コードと受け入れ処理への組み込み

終了コード	意味
0	問題なし
1	要確認・検査不能あり
2	感染・危険あり

Windows（バッチ）の例：納品フォルダを検査し、感染・危険があれば止める

```
"%LOCALAPPDATA%\Programs\Shield3D\shield3d-cli.exe" scan "\\server\incoming\vendorA" --clean --no-open --out "D:\s
can\vendorA"
if %ERRORLEVEL% GEQ 2 (
  echo 感染・危険なファイルがあります。D:\scan\vendorA の結果を確認してください
  exit /b 2
)
```

Python の例

```
import subprocess
r = subprocess.run([SHIELD3D, "scan", path, "--clean", "--no-open", "--out", out_dir])
if r.returncode == 2:
    raise RuntimeError("感染・危険なファイルがあります: " + out_dir)
```

結果フォルダの `report.json` に、ファイルごとの判定・検出内容・SHA256・駆除結果が入ります。

5. 結果フォルダの中身

ファイル（日本語表示／英語表示）	内容
`検査結果.html` / `scan_results.html`	ブラウザで見る検査結果
`検査結果.csv` / `scan_results.csv`	一覧（表計算ソフト向け）
`report.json`	機械処理向けの全結果
`駆除版/` / `cleaned/`	駆除版（`--clean` のとき）
`検査報告書.pdf` / `inspection_report.pdf`	検査報告書（`--client-report` のとき）

6. 設定ファイル

設定は `shield3d_settings.json`（メニュー「ファイル」→「設定ファイルを開く」）にあります。

項目	内容
`language`	`auto`（既定）／`ja`／`en`
`virustotal_api_key`	VirusTotal の API キー（業務ではお客様ご自身の Premium キー）
`clamav_path` / `clamav_database`	ClamAV の場所・定義の場所（通常は空欄のままで自動検出）
`use_mdatp`	Mac で Microsoft Defender for Endpoint を使う（既定 `false`）
`report`	検査報告書の発行者名・部署・担当者・連絡先・宛先・件名（発行者の自由設定はプロ以上）

環境変数 `SHIELD3D_HOME` で設定・結果の保存先を、`SHIELD3D_LANG` で表示言語を変えられます。自社の YARA ルールは、メニュー「ファイル」→「追加ルールのフォルダを開く」に `.yar` を置きます（プロ以上）。

Shield3D は Autodesk, Inc. とは関係のない製品です。Autodesk、Maya は米国およびその他の国における Autodesk, Inc. の登録商標です。
© Cave Studio Inc.（株式会社ケイブスタジオ）